



小松市立学校PTA連合会  
会長 齋藤 浩

PTA会員の皆様が、子ども達の幸せを願いながら日々活動を展開されていることに、心から敬意を表したいと思います。また、常日頃より小松市立学校PTA連合会に対する暖かいご理解ご支援を賜り、心より深く感謝を申し上げます。

昨今の子ども達を取り巻く環境は、豊かさで利便性に溢れながらも、まだまだ多くの問題を抱えていることも事実です。SNSといったインターネット等の問題ではありますが、情報通信技術の発展により、インターネットを通して「いつでも」「どこでも」「だれとでも」コミュニケーションをとることが出来る利便性をもたらしました。2～3年前は携帯電話を持たせない、と全県あげて運動を展開しましたが、現在では携帯電話ではなくて、スマートフォン。また、携帯型ゲーム機からインターネットが出来る時代ですから、時代の変化は早く、保護者や教職員の知識より、はるかに子ども達の知識が先行しているのが現実です。それぞれの単位PTAでは、専門家をお呼びして、ネットや有害サイトの勉強会などを開催されていると思いますが、積極的に参加する保護者はいつも固定され、学校全体の保護者に今ひとつ、浸透していないのが各単位PTAの課題であり、現実であります。

その一方で、お互いに顔と顔を向き合わせて語り合うことは、家族同士でさえも少なくなってきたように感じます。そして、同時に子ども達の「早寝、早起き、朝ごはん」と言った基本的な生活リズムが、少しずつ崩れており、今後の課題であります。

子ども達の生活において、家庭、学校、地域のコミュニケーションがしっかり行き届いていることは大切なことです。お互いの顔が見えることにより、安全、安心に暮らせる土壌が培われていくのではないのでしょうか。そのためにも、まずは子ども達にとって一番身近な私たち保護者が、率先して親としてのあり方を見つめ直し、自らを律し、学び成長することが急務であります。私たち保護者が、お手本となる行動、言動をとることが、最良の家庭教育であり、これからの子ども達の成長に繋がるものだと確信致します。

本年度も皆様と共に、「子ども達のため」「この地域の未来のために」を合言葉に、共に行動する更なるPTAを築きあげたいと思いますので、今後更なるご理解、ご協力を賜りますようお願い致します。



顧問  
鹿田 稔夫

## ● 迷った時はやる！

私がPTA活動に携わるきっかけとなったのは、偶然居合わせた一人の先輩の一言です。「子ども何歳や。」「春から小学生です。」「そりゃ、ちょーどいいわ。PTA役員頼むぞ。」「役員？何するんですか？」

その後、数多くの先輩や仲間を支えられ、様々な経験をさせていただきました。役員に入って5年後（当時、市P連会長）に考えたのは、もし入っていなければどうしていただろうか。きっと仕事はまじめにやり、学生時代からの友人とも親しく付き合っていたでしょう。しかし、今と同様の知人、友人がくれただろうか？子ども達の健全育成や未来について考える自分がいたろうか？

PTAとは、子ども達の健やかな成長を願い、議論を重ね事業の実践を通して、その根本となる「人」を育てる場です。また、互いに家族のことや職場のこと、地域の将来についてと、あらゆることを相談できる第二の仲間づくりの場でもあります。人を輝かせるのは人であり、人を曇らせるのも人であり、出会う人が本気であればあるほど、その人も本気になれるのです。人生の中で、常に右か左か、前か後ろか、やるべきかやらざるべきか判断の連続です。自分は何者で、何をやる為に生を受けたのか、自分の中の羅針盤をしっかりと持ち、失敗を恐れず行動すること。そして、「迷った時はやる！」という気概を持って、笑顔で元気に活動しよう。



# 石川県PTA地区別研究指定発表会 第57回 小松市PTA研究大会

日時◆平成26年7月27日(日) 場所◆こまつドーム集会室



今年、石川県地区別研究指定発表会と第57回小松市PTA研究大会の開催となりました。そのため研究発表では、中海中育友会、申小育友会および中海小育友会いずれも素晴らしい内容の発表でした。講演会では、「国際時代に通用する自己エンジン搭載の子どもを育てる」と題しまして、岡本和信氏による世界のなかで活躍する子どもの教育のありかたについて講演いただきました。



講師：岡本 和信 氏  
(尾道市立因島南中学校 前校長)



◆ 小松市教育委員会表彰状  
東 友起子 様



◆ 小松市立学校PTA連合会会長表彰  
高熊 幸吉 様 越栄 信英 様

## 中海中学校

### PTA研究大会発表を終えて

中海中学校育友会 会長 北出 雅宏

中海中学校育友会では、地域再発見！再発掘！～郷土の歴史・郷土の自然を心で感じて～をテーマとし、発表を行いました。私は当初より、平成18年度から伝統行事として行っている「ウォーキング」を題材に発表を行えば何とかできるだろうと簡単に考えていました。骨子は前年度役員メンバーの方が作成していただき、またまた気が大きくなり、気がつけば本番まで2ヶ月足らず・・・ようやく重い腰を上げ、スタッフ会議を行い、準備を進めてきました。この活動の中で私は、なぜウォーキングが始まり、どのような目的を持っている行事なのかを真剣に考える事もでき、そこで生徒達は何を考え、また保護者の方々はどのように感じスタッフとして参加しているのか？といった点も考えてみました。私なりの考えで、ウォーキングしながら郷土の歴史などを学ぶ行事にし、生徒と保護者、また地域の方々と一緒に勉強してみたいという考えにたどり着きました。その考えに育友会の方々の賛同も頂き、昨年度より恒例行事のリニューアルを行いました。研究大会発表という機会を頂いたおかげで、恒例行事の更なる進化も出来、内容の充実も図れたのではないかと感じています。企画のリニューアルにより、役員一同が一丸となり近隣の歴史を学び、また行事の企画を練り、自分自身の勉強を行う事から始まり、発表の資料作りに汗を流してくれました。資料作成を通じ、地域の歴史等を知らない保護者も沢山の事にも気づき、改めて生徒達だけが勉強をするのではなく、大人達の勉強また生徒に関しては学校以外での勉強が必要と感じました。育友会行事は生徒だけでなく、自らの自己啓発にも繋がるものと感じる事が出来ました。研究大会の発表を通じ、自分一人では全く作業が進める事は出来ず、仲間との協力体制が必要と強く感じ、また発表のやり方も学ぶ事も出来た事に、大変有り難く感じています。また自分の子ども達にも、仲間と共に何か作業をして頑張っている保護者の姿を感じさせる事が出来たのではないかと感じています。最後になりますが、この発表を無事終える事が出来たのも、役員・先生・保護者の方々の協力があったからこそと思っています。本当に有難うございました。



## 串 小学校

### 心豊かな子ども達を育むために

串 小学校育友会 会長 道場 幹雄

第57回小松市PTA研究大会が開催され、串小学校育友会は「心豊かな串っ子を育もう ～子ども達の今と未来のために～」をテーマに発表しました。育友会会長をさせて頂いて今年で4年目になります。数年前より発表しなければいけないことはわかっていたのですが、まさか会長としてこの研究発表を迎えるとは思っていませんでした。しかし、この機会を自分の更なる成長へと繋げようという気持ちで実行委員のメンバーと楽しみながらやり遂げることが出来たと思います。今回の発表にあたり昨年より実行委員会を立ち上げ、心豊かな子ども達を育むために今わたし達がやらなければいけない事は何かを話し合いました。その結果、『生活習慣の改善』『自然環境への取組み』を重点項目として取り組むことに決定しました。近年、急激な環境の変化に伴い、子ども達の生活習慣の乱れが指摘されています。串小育友会では、健康に関する生活習慣項目の実態調査を行い、それぞれの項目についての課題を明確にし、望ましい生活習慣形成に努めました。今回の発表をきっかけに全国でも問題になっているネットいじめや有害サイト等から子ども達を守るために、まず保護者がインターネットの危険性を認識し知識をもたなければいけないことを再認識することが出来ました。

また、私たちは自然環境問題への取組みとしてキャンドルナイトを実施してCO2削減の啓発活動を行っています。この環境問題についても今後も継続して取り組んでいかなければなりません。人は身近にあるものを当たり前存在すると思いがちです。あって当然なものが無くなることで始めて、事の重要性に気付かされます。これらを未然に防ぐためにも子ども達に環境の大切さを教えていかなければなりません。自然に感謝する気持ち、これが友だちや物を大切にする気持ちにつながると思います。子ども達・保護者・学校・地域が一緒に取り組むことで自分たちの町に対する愛着も深まるのではないのでしょうか。

最後になりますが、多くの皆様のご支援とご協力をいただき無事、研究発表を終えることができたことに感謝いたします。本当にありがとうございました。



## 中海小学校

### PTA研究大会発表を終えて

中海小学校育友会 会長 西田 清明

中海小学校育友会は「地域みんなでハッピースマイル運動！中海！」というテーマで研究発表を行いました。研究発表に向けては、保護者の方々、教職員の方々、そして地域の方々が連携し、三位一体となり、あいさつ運動を実行したことは言うまでもありませんが実行委員長をはじめとして各委員会の方々には、それこそ前向きに一生懸命に取り組んで頂き、また活発な意見交換など、プレゼンに向けての作業を進めていただきました。手前みそで恐縮ですが、育友会のチームワークと誠実なスタッフに恵まれましたことを、心より感謝致しております。

来年の5月17日に、小松市の木場潟で、全国植樹祭が開催されます。天皇陛下をはじめ、日本全国から多くのお客様がいらっしゃいます。そのお客様に対して、きちんとあいさつをすることが最大のおもてなしだと思います。中海小学校では「ハッピースマイル運動」を継続し、中海地域はもちろん、小松市、石川県からハッピースマイルの輪を広げたいと思います。

人間はだれしも一人で生きているわけではありません。家族がいて、友人がいて、学校があって地域社会があると、多くの人々が係わって生きています。そこで大切なのはあいさつです。いろいろな人と交流することで、人間関係や集団のルールが自然と身についてくると思います。子どもを安心して育てられる安全な地域社会を作る為にも、あいさつから始まる地域コミュニケーションが必須となります。地域のつながりが深まると、地域を愛する心が生まれ、故郷を大切に、地域の伝統を守る優しい心と、正義の心が自然と身につくのではないのでしょうか。

最後になりましたが、今回の研究発表の場を与えてくださった関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 第1回 母親委員会

日 時 ◆ 平成26年5月22日(木) 午後7時より  
場 所 ◆ ホテル サンルート小松



小松市立金野小学校  
校長 北川 雅美

## ● 「子どもの夢」 実現の後押しを

「かんじんなことは目に見えない」これは、『星の王子さま』という本の中で、キツネが王子様に言った言葉です。例えば、一生懸命チャレンジする心、友達を思いやる心、感謝する心などたくさんあるでしょう。私達は普段、表面的なものを見て物事を判断しがちです。しかし、目に見えないものにこそ、人間としての大切なことが潜んでいるのではないのでしょうか。

私がその中で一番大切にしたいのは、夢を追いかける子どもの心です。

子どもは、夢をもつことで目標ができ、日々の生活の中で努力する姿勢が生まれます。そして、小さいステップでの成功体験を積むことで、次第に「自分が動けば、変わる」ことを実感していきます。私達大人は、そう実感できる機会を仕組み、体験させてやるが必要ではないのでしょうか。このサイクル・習慣化こそが、大切な「心の基礎づくり」「主体性」につながるものだと思います。

しかし、夢をもつのはなかなか難しいことです。子どもに夢をもたせるには、いろいろな体験をさせたり見聞を広めさせたりして、世界観を広げてあげることが大切です。そして、肯定的に物事を評価し子どもに返すことではないかと思っています。子どもが夢を語ったときは、「すてきだね。応援するよ。」と返してあげてはどうでしょうか。

また、子どもの自己肯定感を高めることも大切です。まず、前向きに生きる姿勢を見せること。また、聞き上手・観察上手で、良い所探しの名人になること。子どもを認めて、心を込めて言葉をかけてあげてください。達成感を味わわせることで、きっと心が豊かに成長します。家族は、いつでも笑顔で子どもを元気づける応援団です。

「這えば立て、立てば歩めの親心」と言います。親は、我が子に対する愛情故に、もっともっとと要求しがちです。しかし、それは、「心の基礎づくり」に繋がる親心でありたいものです。



## 『子どもの心の コーチング』

著 者：菅原 裕子  
出版社：PHP研究所



## 母親委員会 広報担当

松元 利美・本造優美子  
土田 正美・小澤佐恵里

今年度は、私たちが担当させて頂きます。よろしくお祈りします。



# 第2回 母親委員会

日時 ◆ 平成26年6月25日(木) 午後7時より  
場所 ◆ 第一コミュニティセンター



講演

子育て改革 今、求められる能力を考える

◇講師

金沢工業大学  
基礎教育部教職課程 教授 白木 みどり氏

●プロフィール

石川県公立学校教諭、上越教育大学大学院准教授を経て現職  
『小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き』作成協力者委員 文部科学省  
『中学校キャリア教育の手引き』作成協力者委員 文部科学省  
『中学校学習指導要領解説道徳編』協力委員 文部科学省  
『中学校道徳読み物資料集』作成協力委員  
「道徳の充実に関する懇談会」委員 文部科学省  
日本キャリア教育学会常任理事  
日本道徳教育方法学会理事 他

## 未来社会に生きる子どもたちに 私たちは今・・・

教育の目的・・・社会で自立するため(生きる上での)基盤をつくる。

一人一人のミッションで成り立ち守られている社会

あなたは、子どもの  
ことを知っていますか？

### 親の意識改革

- 学力編重社会からの脱却。
- 学力は能力の一部であり、総合力を高める。
- 良い学校とはどんな学校なのか吟味する。
- 子どもの個性、能力、適性を大切にする。
- 子どもの夢や希望を応援する。
- ほめること、叱ること、諭すこと。
- 干渉と放任のバランスを考慮する。
- 魔法の言葉を増やす。⇒「子は親の鏡」

学校と家庭・地域で連携  
～社会全体で子どもを育てること～

### ワークショップ

講演を聴いて、皆さんで意見交換をしました。



講演を聴いた方の感想を一部掲載させていただきます。

- 人生は選択と決定の繰り返しで、子どもが自分自身の力で決定できるように！というところに感動し、そのように育ってほしいと願っています。
- 子育てとは、親が意識改革すること - 時代の流れに合った知識を身につけ、子どもに教えていく。また、親の意見を伝えていくことの大切さがわかりました。
- 視点を変えると見えてくるもの - 子育てのみならず人間関係全ての問題に当てはまることだと解り、親として何が必要で協力できるのかを見直したいと思いました。
- 知識面での学力向上だけでなく、体験することにより、親が率先してサポートしていきたいと思いました。



# 親子ふれあい体験バスツアー

## “船上よりイルカウォッチングと魚釣り”

豊かな心を育む委員会 委員長 吉田 淳也



今年は、小学3年から6年までの親子を対象に45組90名の募集をしたところ、65組130名の参加申し込みがありました。とても嬉しかったのですが、募集人数が決まっており、抽選の結果、40名20組の親子が参加できなかったことが残念でした。

今回の事業は、七尾湾で船に乗ってイルカウォッチング、のとじま海釣りセンターで魚釣りを企画しました。普段、親子のコミュニケーションが少なくなっている中、親子一緒に何かに取り組むこと・体験することを通して親子の絆を深めて頂き、何かを感じて頂くことを目的に「豊かな心を育む委員会」で考えました。

当日は、朝からとてもすごい雨で予定通りに事業が出来るかとても心配でした。しかし七尾湾に着く頃には、天候も回復していました。2班に分かれて、イルカウォッチングと魚釣りを行いました。

魚釣り体験では、能登島海釣りセンターの方に餌の付け方等教えて頂き魚釣りを行いました。お父さんやお母さんが餌を付け、子どもが魚釣りをするという光景を見てみると、これが「親子ふれあい体験」だなあと感じました。イルカウォッチングの体験では、8名ずつに分かれて船に乗って七尾湾に出て行きました。90%の確率で野生のイルカに会える予定でしたが40分の航海でイルカに出会えませんでした。操舵士さんは、「昨日はずっと見れたんやけどなあ」と言っておられましたけど・・・。

イルカが見れず参加者の皆さんはとても残念そうでした。勿論、私もとても残念でした。今度家族でリベンジに行きたいと思います。最後に、至らぬ点もあったと思いますが、参加者の方から温かい感想を頂いたこと、そして関係者の方々、委員会のメンバーの皆さんの力添え、本当に感謝しております。有難うございました。



### 参加者した保護者の感想

- 子どもと行く旅行は最近少なくなっている中で、二人での旅行は大変素敵なことでした。でも、子どもが何を考えているか親として何をすべきか日々の忙しさから忘れがちな部分を思い出させてくれる良い機会となりました。次の機会も参加したいと思います。
- 天候が心配で出発時は本当に大丈夫？って思いましたが、上手く晴れ間もあり子ども達との楽しい夏休みの思い出ができました。私が一番イルカ見たかったのですが、そんなに全てカンペキな事なんてなく無事一日安全にケガもなく過ごすことができ、ホッとします。バスガイドさん、スタッフの方のおもてなしがとてもうれしく朝食のパンからホットのサービス。ちょっとした事も主婦の私にとって最高でしたよ！！つりの時間も私にとってはちょうどいい時間帯でした。パパとの参加者の方も多く今度はパパにも子どもとのふれあいしてもらおうと思いました。今日一日有難うございました！

### 参加した子どもの感想

- イルカウォッチングでイルカは見られなかったけど、船でとても楽しいけいけんになってとてもよかったです。魚つりでは、なかなか魚はつれなかった。でも1匹はつれたからうれしかった。
- 最初の魚つりは全くつれなくて途中であきらめてしまいました。そして、イルカウォッチングではイルカが見れなくて少しざんねんでした。2回目の魚つりでは、こつをおぼえて5匹つれたので良かったです。
- はじめは、つりなんてできるかなと思っていたけどやり方をおしえてもらえばかんたんでした。でもつるのはむずかしかったです。イルカウォッチングはイルカがいないけどカモメがいっぱいいたのでカモメウォッチングになってしまいました。残念です。またつりをしたいです。



## 「子どもと一緒に学ぼう」

## 単Pだより

国府中学校

国府校下の一つの活動として、小学校育友会と共同で教職員の小中合同の歓送迎会を開催していることが挙げられます。春には新任の教職員の方を地域の方々と共に歓迎し、少しでも早く国府地区に慣れて活動し易くなって頂こうと、各町の町内会長、公民館長、あるいは社会福祉協議会や女性会の方々の参加を頂き、和気あいあいと親睦を図り交流を深めていきます。一方3月には、慣れ親しんだ国府から異動の為に残念ながら離れることになった先生方を春同様に地域の方々と共に、新天地での活躍を期待してこれまでの感謝を込めて送り出します。

このような活動はこの国府の地域だからこそ実現できるものだと思います。小学校入学から中学校を卒業するまでの9年間を同じメンバーで学びあえる恵まれた環境こそが、地域に根付いた国府の最大の特徴ではないでしょうか。PTA活動では、総務・育成・広報・保険・学級の各委員会に分かれて、事業を行っています。総務委員会ではPTAスローガン「子どもと一緒に学ぼう“明日のために”子どもと一緒に貢献しよう“国府のために”」を掲げて、夏休みに例年実施している資源回収・奉仕作業にて、生徒と一緒に汗を流し、働くことの苦労や大切さを学びます。育成委員会では朝の交通指導やグッドマナーキャンペーンで挨拶運動などを、保健委員会では家庭教育講座や給食試食会を開催し心と体の健康に関して学ぶ機会を設けています。広報委員会では年3回の広報の発行、学級委員会では先生との学年懇談会を開催します。PTA役員は任期が1年なので特に真新しいテーマを行うには難しい面があり、恒例となっている各行事を継続して行くことで役員や担当教師の負担も少なく前年度の反省点も取り入れながら充実した活動となっています。「PTAは大変だ」ではなく、チャンスと受け止めてこれからも子どもと一緒に学ぼうと思います。



## 「波佐谷小学校について」

## 単Pだより

波佐谷小学校

波佐谷小学校PTA会長の谷保です。今年の波佐谷小PTAのテーマは、「絆を深めよう～心のこもったあいさつを～」です。児童達は、通学途中ですれ違い時のお爺ちゃんやお婆さん達には素直にあいさつをするのですが、朝起きた時の家族へのあいさつや、集団登校時の友達とのあいさつはなかなかできていないと聞きましたので、このテーマをもってきました。保護者の方々も、「朝の声かけ運動」として、週に一度、通学路二箇所に立ち、児童達へのあいさつと交通安全を確認しています。

波佐谷小PTAでは、広報、生活環境、学級と3つの委員会があり、それぞれ活動しています。広報委員会では、年3回「せなみ」と言う広報誌を発行し、PTA活動などの報告を行っております。今年の第一回目の発行は丁度150号の記念として表紙も一新して頑張っております。生活環境委員会では、危険箇所に看板を設置し、春と秋の2回資源回収を親子で行い、プールが始まる前には、救急法講習会を消防署の方々の指導の下、行っております。学級委員会は、お母さん方の集まりで、各クラス毎の行事の親子レクリエーションや、年3回の学級委員便りを発行しております。その他、ふれあいパーティーとして、児童の参加とアルコール抜きで保護者の方々と先生の方々と交流や、波小フェスティバルとして、各学年毎の研究発表や劇、およびミュージカルなどを披露した後、児童や先生、お爺さん、お婆さん、そして保護者の方々みんなで力を合わせて餅つき大会をして交流を深めております。波佐谷小も140年の歴史がありますが、少子化などの影響のあり、いろいろなごうじについて今後問題は出てくると思います。私も波佐谷小の出身で在学中に創立100周年を経験しております。歴史も大切ですが、児童達が一番大切であると思いますので、児童達が一番良い方向に行けたらいいなと思います。



# 皆で成功させよう 東海北陸ブロック PTA 研究大会石川県・小松大会

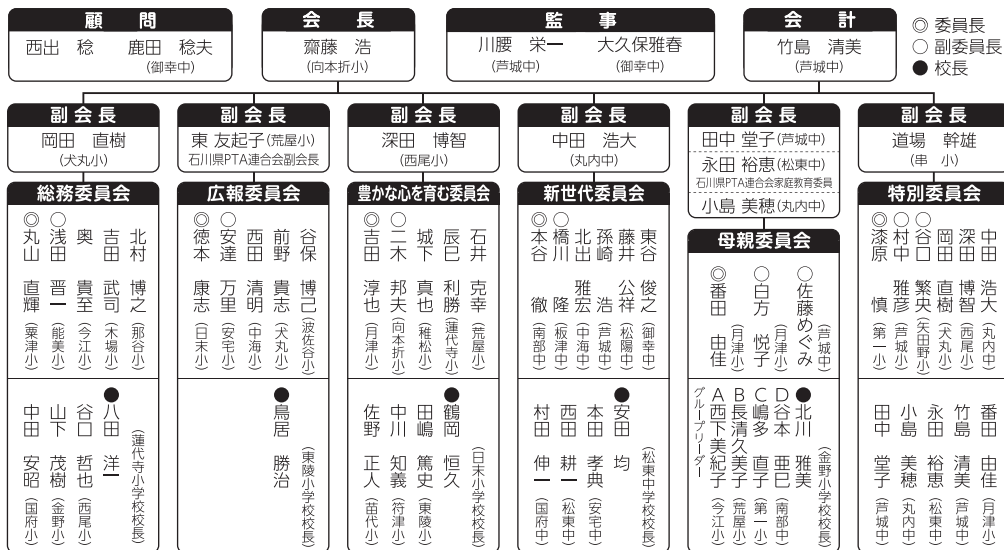


毎年、この東海北陸ブロック内(6県1市)で開催されておりますPTA研究大会が27年度に、ここ小松市で開催されます。この大会は、東海北陸ブロック6県1市(岐阜県、三重県、富山県、愛知県、福井県、名古屋市、石川県)のPTA会員が一堂に会し、PTAの現在直面している課題について研究・実践・活動した成果をもとに討議を深めること、さらにPTA活動の情報交換を行い、互いに協力してPTA活動の振興に資することを目的としています。27年度、石川県小松大会の大会主題として「子ども達の未来を地域とともに」～「智・仁・勇」の心から始まる未来への物語～と掲げました。大会開催地である小松市は石川県内では歌舞伎の町として知られております。その中において中学校が持ち回りで毎年上演している「勧進帳」の3役、弁慶・富樫・義経の心である「智・仁・勇」を大会主題に取り入れました。それは「勧進帳」が小松の安宅を舞台としていること、私たちがこの地域の子供達に願うものがまさに「智・仁・勇」の心であること、また「智・仁・勇」の心が文部科学省の新学習指導要領の基本的考え方「生きる力」(智・徳・体のバランスのとれた力)にピタリと合致することから主題に取り入れました。ここでもう少し詳しく「智・仁・勇」の心を説明しますと、まず「智」は弁慶で安宅の関において関守である富樫に厳しくとがめられるも、英知を絞り難関を突破しようとする、これが新学習指導要領の生きる力でいう「知」、基礎的な知識・技能を習得しそれらを活用して、自ら考え、判断することにより、様々な問題に積極的に対応し解決する力、にあたります。次に「仁」は富樫で義経主従の情を汲み取り、情をもってすべてを許す心。これが生きる力の「徳」、自らを律しつつ、他人とともに強調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、にあたります。つづいて「勇」は義経で弁慶の知恵に身を任せ、金剛杖の下にわが身を投げ出す行動。これは「体」でたくましく生きるための健康や体力、にあたります。このように今大会の主題は子ども達の未来をより良きものにするために、この地域とともに「智・仁・勇」の心をもって、皆で考え、創り上げていこうと思います。

石川県小松大会は平成27年10月9日(金)・10日(土)に開催されます。メイン会場は小松ドームとし、各分科会が市内各施設で開催予定となっております。全体会そして各分科会をより良きものにしていくためには、多くの皆様のご協力なくしては成し遂げられないと思います。何卒ご協力の程、宜しくお願い致します。

東陸大会プロジェクトチームリーダー 川腰 栄一

## 平成26年度 市P連組織



## 編集後記

広報委員長になって初めての広報誌発行に無事こぎつけました。単なる委員の頃とは比べ物にならないほど、段取りや各委員会の皆様との連携があり、不手際もあったと思います。この場をお借りして、関係各所の皆様にはお礼を申し上げます。

広報委員長 徳本 康志  
(日末小)

### スタッフ

- 東 友起子(荒屋小)
- 安達 万里(安宅小)
- 西田 清明(中海小)
- 前野 貴志(犬丸小)
- 谷保 博己(波佐谷小)
- 鳥居 勝治(東陵小学校校長)